

日東紡グループ

2011年度 決算説明会



2012年5月16日

目次

I .2011年度決算の概要

II .2012年度業績予想と今後の取組み

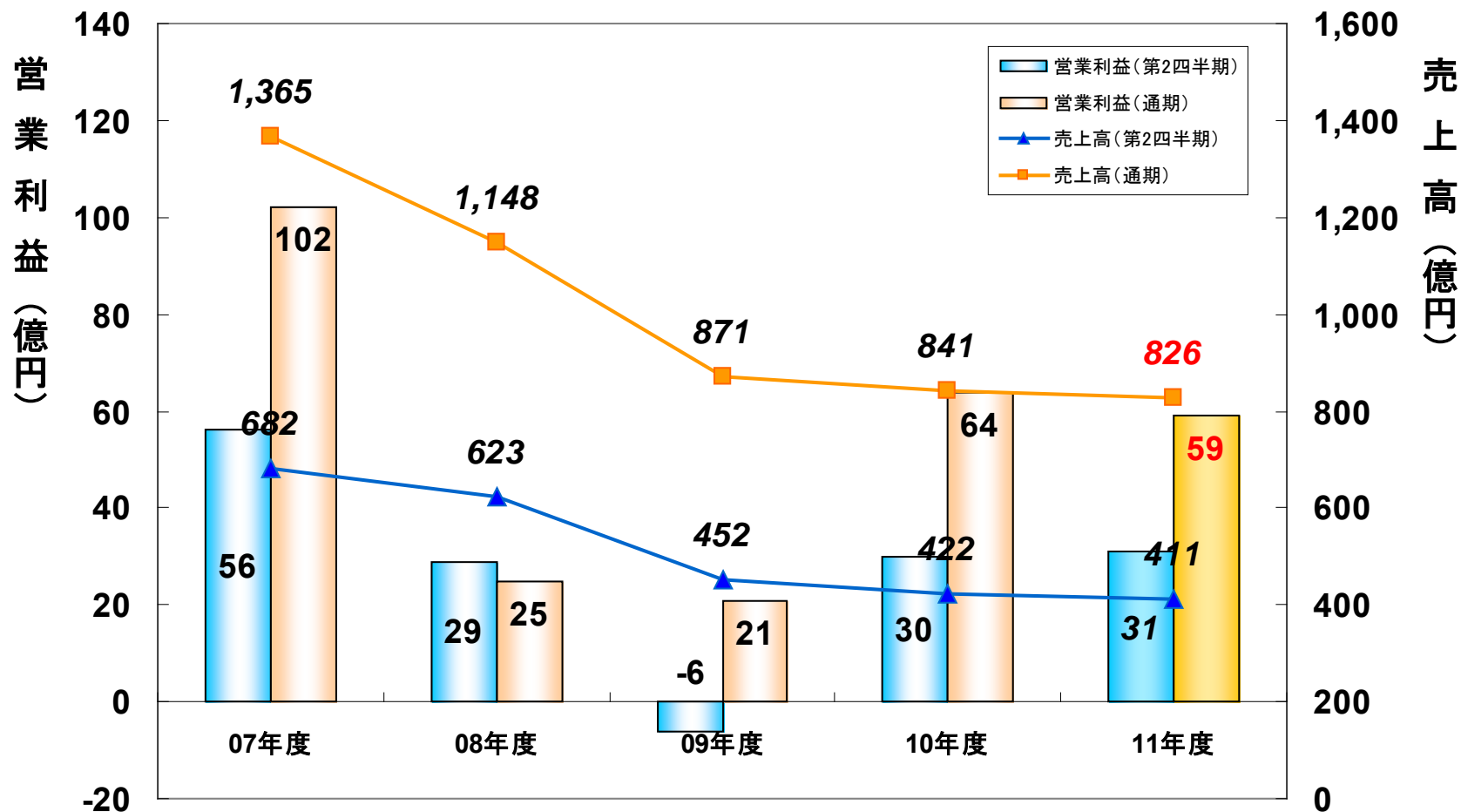
I. 2011年度決算の概要

1. 業績概要

(億円)

	2010年度	2011年度	増減	増減率 (%)
売上高	841	826	▲15	▲1.8
営業利益	64	59	▲5	▲8.7
営業利益率 (%)	7.7	7.2	▲0.5	—
経常利益	60	54	▲6	▲8.4
当期純利益	28	14	▲14	▲48.9

2. 売上高・営業利益の推移





3. 財務及びキャッシュフロー

(億円)

	2010年度	2011年度	増減
総資産	1,280	1,310	30
純資産	557	558	1
自己資本比率(%)	42.4	42.0	▲0.4
1株当たり純資産(円)	272.40	276.11	3.71

	2010年度	2011年度	増減
営業キャッシュ・フロー	115	46	▲69
投資キャッシュ・フロー	▲41	▲82	▲41
フリーキャッシュ・フロー	74	▲36	▲110
財務キャッシュ・フロー	▲55	▲26	29
現金及び現金同等物期末残高	146	84	▲62

4-1. セグメント別業績

2011年度

(億円)

	売上高	営業利益 (営業利益率(%))
繊維	61.8	1.2 (1.9)
G/F	451.4	33.6 (7.4)
環境	192.0	16.5 (8.6)
医薬・飲料	105.1	9.2 (8.7)
その他	16.1	3.3 (20.7)
消去	—	▲4.4 (—)
計	826.4	59.3 (7.2)

(参考) 2010年度

(億円)

	売上高	営業利益 (営業利益率(%))
繊維	73.5	3.0 (4.1)
G/F	481.3	44.8 (9.3)
環境	171.1	7.6 (4.5)
医薬・飲料	99.4	12.3 (12.3)
その他	16.3	2.0 (12.4)
消去	—	▲4.4 (—)
計	841.6	64.9 (7.7)

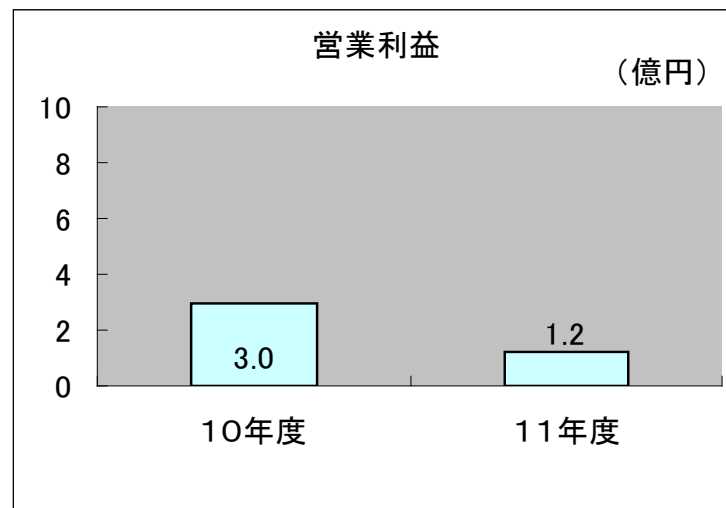
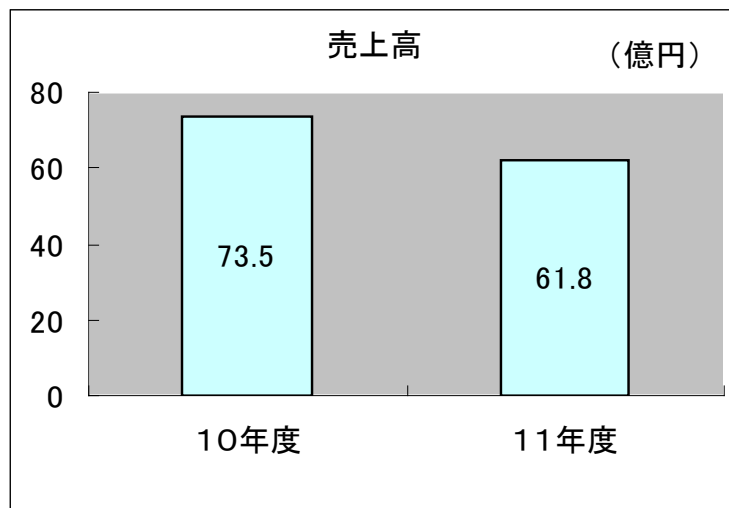
4 - 2. セグメント別業績推移(四半期別)

(億円)

セグメント		2010年度				2011年度			
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
繊維	売上高	18.1	18.1	20.2	17.0	15.9	15.8	16.4	13.7
	営業利益	0.9	0.7	1.1	0.3	0.5	0.6	1.0	▲1.0
G/F	売上高	119.6	124.3	120.5	116.9	116.3	112.2	109.4	113.6
	営業利益	11.1	10.8	11.4	11.5	10.3	8.3	6.4	8.5
環境	売上高	32.8	44.4	43.5	50.4	40.3	43.5	56.9	51.3
	営業利益	▲2.0	1.7	2.5	5.4	1.5	3.4	6.3	5.1
医薬・飲料	売上高	26.4	29.9	22.8	20.2	31.0	29.0	23.5	21.6
	営業利益	3.8	4.5	2.3	1.6	3.3	2.8	2.3	0.7
その他	売上高	4.4	4.2	4.1	3.6	3.9	4.0	4.1	4.0
	営業利益	0.9	0.6	0.4	0.1	0.8	0.7	0.9	0.9
消去	売上高	—	—	—	—	—	—	—	—
	営業利益	▲1.7	▲1.2	▲0.5	▲1.3	▲0.7	▲0.6	▲1.3	▲1.7
計	売上高	201.3	220.9	211.2	208.1	207.4	204.5	210.3	204.3
	営業利益	13.0	17.1	17.2	17.7	15.8	15.3	15.7	12.6

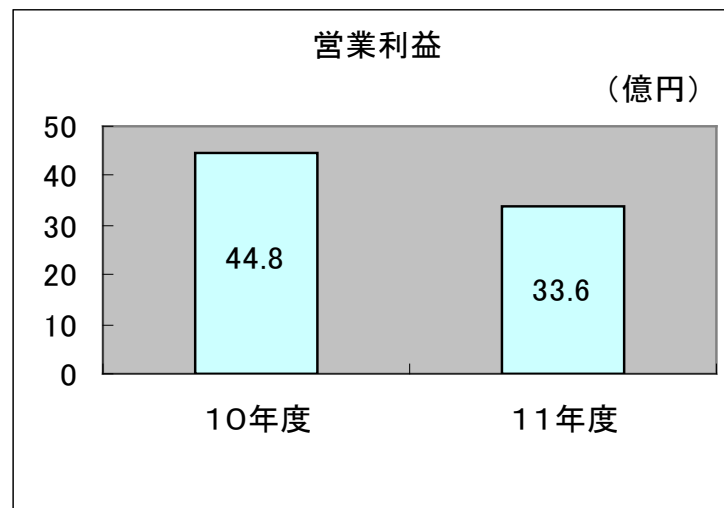
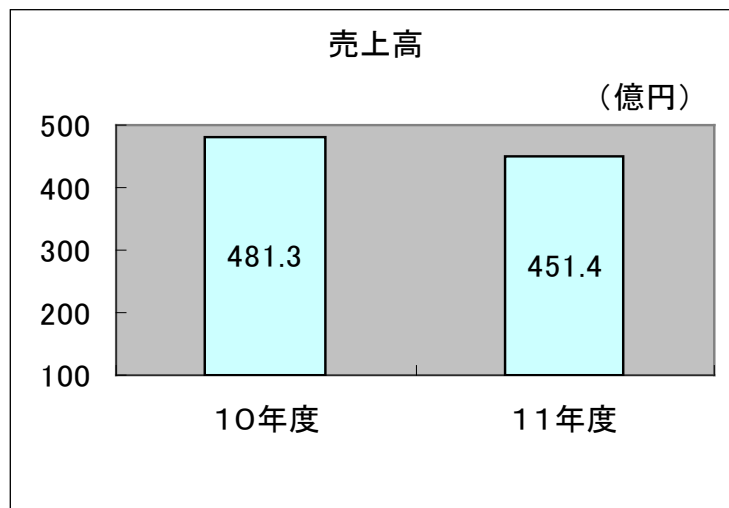
(1) 繊維事業

ストレッチ素材C・S・Yの原糸素材、接着芯地の衣料資材は、アパレル業界の低迷や衣料品消費が依然低調であるなど、総じて厳しい環境の下、コストダウンに努めた。



(2) グラスファイバー事業

電子材料用途や強化プラスチック用途は、高付加価値品が底堅く推移したものの、第2四半期以降で在庫調整の動きが見られた。
産業資材用途は、建築・土木分野を中心に拡販に努めた。

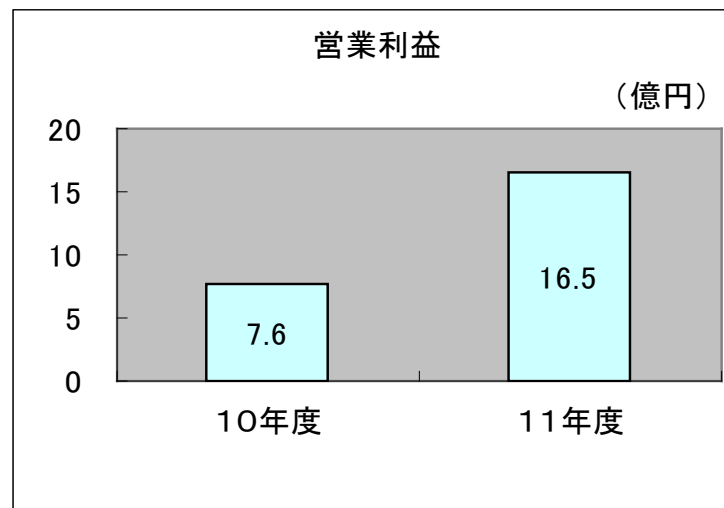
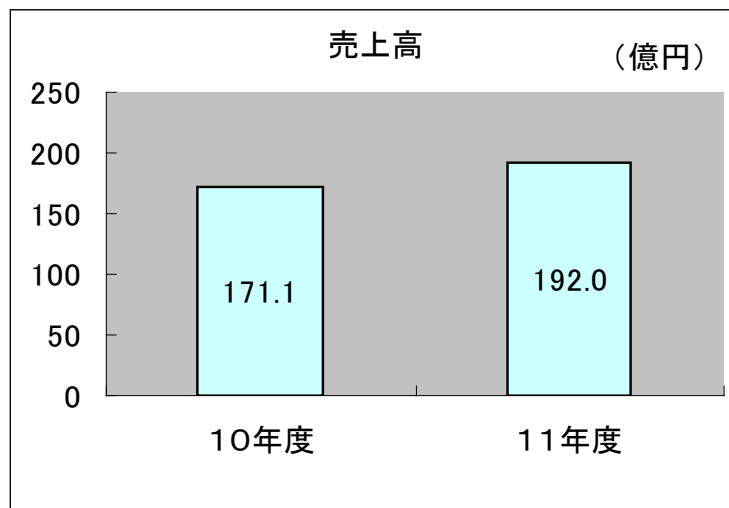


(3) 環境事業

断熱材のグラスウールは、省エネ・環境対応関連の需要の継続により、堅調に推移した。

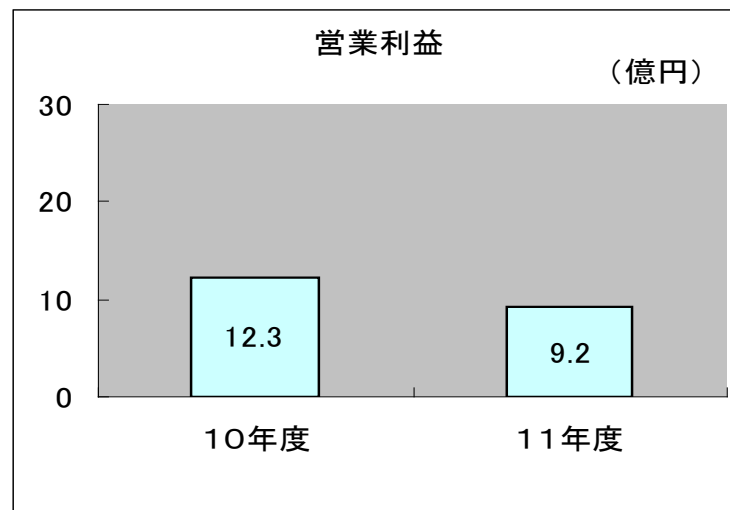
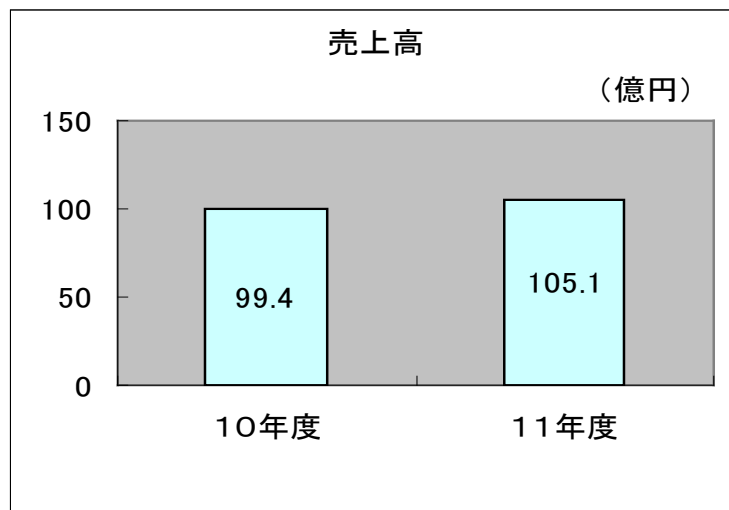
エンジニアリング・工事分野は、設備工事関連が伸長した。

グリーンビジネス分野は、ロックウール培地や、植物工場で栽培した農産品の拡販に努めた。



(4) 医薬・飲料事業

体外診断薬分野・スペシャリティケミカルス分野は、震災の影響を受ける中、新商品の開発等に努めた。
飲料分野は、新商品の上市・拡販を進めた。



Ⅱ. 2012年度業績予想と今後の取組み



Relay¹⁰¹

1. 2012年度業績予想

為 替:75円/\$
原油価格:115\$/バレル

(億円)

	2010年度	2011年	2012年度 予想	対前年 増減率 (%)
売上高	841	826	830	0.4
営業利益	64	59	60	1.2
経常利益	60	54	55	0.1
当期純利益	28	14	30	109.2

2. セグメント別動向と今後の取組み

【全体】 ※当社は、セグメント別の業績見込み数値は開示しておりません。

世界経済の先行き不透明感が払拭できない中、不安定な為替動向など、依然として予断を許さない状況の下、中期経営計画の最終年度として、引き続き事業基盤の強化と企業価値の向上に努める。

【セグメント別】 本年4月より、グループの事業基盤を一層強固にするための組織改編を実施し、4事業部門制から3事業部門制となりました。

繊維事業	固有技術を活かした高品質かつ高機能商品をグローバルに提供し、徹底したコストダウンを追求していく。
グラスファイバー事業	生産・販売・技術が一体となって、更なる高付加価値化の推進・収益構造の強化を図り、環境変化への弾力性が高い事業基盤を一段と確固たるものにしていく。
環境・ヘルス事業	営業力・技術力を両輪として、事業成長と付加価値向上を図り、より幅広い分野で安心・安全な製品を提供していく。

本資料の取り扱いに対する注意事項

本資料に記載されている予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績数値や施策の実現を確約・保証するものではありません。